

学位論文内容の要旨

学位申請者	張 瑋容 【ジェンダー学際研究専攻 平成24年度生】	要 旨
論文題目	現代台湾社会における親日感情の構築と日本の記号化—哈日族と哈日現象の分析を通じて—	<p>かつて日本植民地だった台湾には、終戦後 70 年を経過した現在においても、日本の痕跡は文化的景観の中に色濃く残存し日本モノの消費と受容を通じてハイブリッドな「日本」が遍在する。本論文は現代台湾社会における日本のポップカルチャーの積極的な受容者（哈日族）と受容現象（哈日現象）における「記号化された日本への愛着」を台湾独自の対日関係の歴史的・社会的文脈に位置づけ、日本愛好者である哈日族の人々が日本に対して抱く好意または日本の物事に対して表す愛着を台湾の構造的な親日傾向との関係において分析することを目的とする。第一部「哈日現象の系譜」（第 1 章～第 2 章）では植民地期から現代までの各期における日本のイメージ形成の構造的特質を特にマクロな国家政策の次元において分析し、その系譜学的考察のうえに 90 年代以降の哈日現象の展開と「日本への愛着」の変容過程を記述分析する。第二部「哈日現象の現在」（第 3 章～第 5 章）では台北西門町と台北地下街での臨地調査に基づいて日本文化商品市場とそこに集う業者・消費者の諸実践の特質をメゾレベルにおいて多角的に解明する。さらに、哈日族個人の詳細なライフストーリー分析を通じてミクロな生活実践のレベルから哈日現象の特質を解明する。第三部「「<日本>への愛着」の体系」（第 6 章～第 7 章）では、哈日族の生活の中に重要な位置を占めるアイドルやキャラクターのグッズコレクションのミクロレベルの詳細な分析を通じて日本の記号化とそこに醸成されるファンタジーの特質を解明したうえで、国家政策とイデオロギー（マクロ）と哈日族個人々の生活世界（ミクロ）を架橋する台湾の社会空間（メゾ）における「重要な他者」として神話化される「日本なる集合的想像」の産出過程を析出する。そして、全体の総括である最終章では、日本植民地期-戒厳令期-ポスト戒厳令期（現在）の各期におけるマクロ（国家政策、外交）-メゾ（メディア、教育、市場）-ミクロ（個人の生活世界）の相互作用と節合の特質を「日本の記号化の系譜」モデルとして総合し、台湾における親日感情の遷移とその背景を成す社会的文脈の重層的構造を提示する。</p>
審査委員	(主査) 教授 棚橋 訓	
	教授 足立 眞理子	
	准教授 申 琪榮	
	教授 加賀美 常美代	
	武蔵大学社会学部准教授 大橋 史恵	